

いいとこのぼさう わがまち日新

日新公民館

1 日新地区の概要

日新地区は、福井市の中心から北西に位置し、いわゆる市街化周辺地域である。農村の宅地化に伴う人口増により、昭和 51 年に日新小学校開校とともに、既存の 3 地区（西藤島・春山・湊）のそれぞれ一部を分割・合併して誕生した比較的新しい地区である。同時に開館した本公民館やその後立ち上げられたまちづくり組織において、地域の課題や住民のニーズを捉えた様々な活動が活発に展開されている。それぞれの地区で培われた環境、歴史、文化の違いや、新しい住民が増えていくという状況を生かしながら地域づくりが着実に進められてきている。

現在は、人口は横ばい、少子高齢化が徐々に進行するという状況である。（平成 27 年 7 月 1 日現在、人口 5,419 人、世帯数 2,301 戸、高齢化率 26.6%、後期高齢化率 13.5%）

2 特色ある取組

(1) 「日新かるた」に係わる一連の取組

「日新かるた」は、郷土の魅力を再発見して後世に伝えていくことを目的として作成された。平成 21 年に読み句を地区民から募集し、12 人の委員が 1 句 1 句吟味し、地理や歴史の検証をするなど修正し、約 8 か月がかりで完成した。翌年には、市内各公民館や地区の小・中学校等へ解説書付で配付された。

この「日新かるた」には日新地区のいろいろな顔や風土が読み込まれていて、これをもとにここ数年をかけて様々な活動を行ってきた。

平成 24 年度には、かるたに読まれている地域の名所が人目でわかるように大きな立て看板「日新かるたマップ」を公民館前に設置した。（かるたに取り上げられていなかったいくつかの名所も、当時採用されていなかった応募句と共に掲載した。）

また、平成 25 年度には「日新かるたマップ」に示された名所を見て歩くために、写真と解説文と 3

つのコースが掲載された冊子「日新かるた見て歩きMAP」を作成した。

【日新かるたマップ】

【日新かるた見て歩きMAP】



さらに、平成 26 年度には、コースを散策した人がより理解を深められるように名所 15 か所に、かるたの読み句などが書かれた「案内看板」を設置した。

これらの活動は、「いきいきライフセミナー」（成人教育学級・郷土学習に関する事業）の取組の一つとして行われ、それぞれの完成までには、年間 20 回以上の会合が持たれた。

また、日新地区の名所を巡る活動は、小学生の総合的な学習や高齢者の健康増進を図る行事に取り入れられるなど、様々な活用されている。

(2) 底喰川の清掃・美化活動

底喰川は、昭和 57 年より河川改修工事が行われていたが、大変汚染された状態であった。平成 7 年度よりまちづくりの一環として、底喰川の環境美化に視点を当てて事業化して取り組むようになった。以来、「学習会」「先進地視察」「清掃活動」「源流を訪ねるウォーキング」「高水路（河原）と低水路の建設の要望」「高水路への草花植え付け」等、たゆまなく取組が進められ、環境は大幅に改善された。

現在は、「地域の誇り・まちづくり日新」環境部会が主に企画・運営を行い、地区民全体に呼びかけて実施している。主な活動としては以下のものがある。

○定例清掃は、3 月～11 月まで毎月第 4 日曜日に行われる。毎回平均 30 名前後が参加している。



【藤島中生による清掃活動】



【住民による清掃の様子】

- 一斉清掃は、3月、7月、11月に、市のクリーン作戦に合わせて、自治会連合会主催で実施されている。毎回平均150名前後が参加している。
- 定例の清掃では対応が遅れがちになることから、ボランティアが臨機応変に除草作業等を行っている。
- 福井商業高校では、平成25年度より、同校の家庭クラブ委員会やJRC部が生徒への呼びかけをし、毎年6月後半頃に清掃活動を行っている。27年度の参加者は250名で、年々増加している。藤島中学校でも、26年度より総合的な学習の一環として、11月中旬に清掃活動をしており、26年度の参加人数は120名であった。27年度以降も活動を予定している。
- 高水路及び河川周辺の草木や花壇の手入れも清掃活動と併行して行っている。
- 平成12年に、底喰川岸辺に水の浄化作用がある湿性植物、約150株を植えた。これは、「地域の人に実際に岸辺に下りて植物を植えることで、美しい環境づくりの必要性を理解してもらおう」と、日新公民館が企画して行った。植えられたミソハギや花ショウブ等は、季節になると見事な花を咲かせ、現在では地区のシンボルの一つとなっている。



【見事なミソハギの花】



【底喰川ウォッチング】

- 環境の大幅な改善により、きれいになった底喰川に親しむ活動として、「底喰川ウォッチング」（公民館主催）や「生き物観察会」（環境部会主催）を実施している。子どもたちが周辺の動植物や水中の生き物の採集・観察をするよい機会となっている。「生き物観察会」で見つけた生き物を子どもたちが絵にし

て、公民館内に掲示してある「底喰川鳥かん図」に貼り付け、訪れた住民の目を楽しませている。

(3) コミュニティバス（日新さんさんバス）の運行

平成22年5月、地域の交通弱者の買い物や通院の利便性向上を目指して、「コミュニティバス」の準備を開始した。「先進地視察」「地域住民へのアンケート」「コース・ダイヤの検討」等を行った。

- 平成24年11月5日、満を持して試行運行が開始されたが、月乗車人数が200名前後と低迷した。

（下表①）

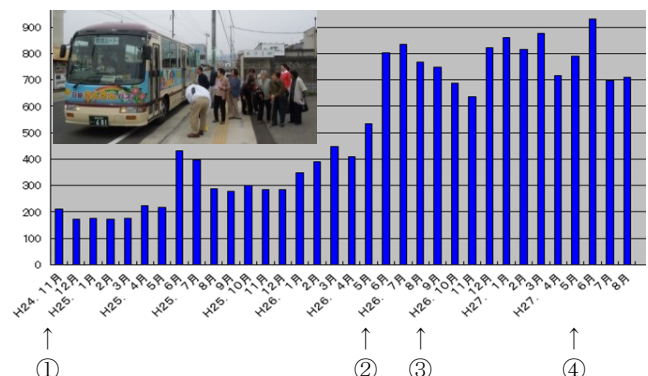
- 平成26年5月10日、ルート及びダイヤを大幅に改訂した。改訂のポイントは以下である。②

- ・8の字コースを周回コースにする。
- ・隣の春山地区の田原町商店街をコースに含める。
- ・公民館利用者が使いやすいダイヤとする。

- ルート及びダイヤ改正が功を奏し、乗車人数が800人台になったことから平成26年8月7日、異例の試行運行1年間延長が決定された。③

- 乗車人数が安定的に増加したことにより、平成27年5月21日に、同年10月より3年間の本格運行が決定された。④

【月別乗車人員数（横軸：年月 縦軸：人数）】



3 おわりに

ここでは触れることが出来なかったが、まちづくり文化・広報部会や自主防災連絡協議会はじめ多くの組織においても熱心な取組が様々に行われている。これら日新のよさがますます発展するとともに、また、地域の方々の力が最大限に発揮できるようにしていくのが公民館の大きな役割であると考えている。

公民館が将来を見据えて進めてきたことが、環境に対する地区の方々や小・中・高等学校の児童生徒の高い意識と活発な取組につながったものと強く感じました。また、それが他の面でも発揮されていることが素晴らしいと思いました。